

配置比較表

|           |          | A 校庭南側に配置                                                                                                | B 南棟、屋内運動場南側に配置                                                                          |
|-----------|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 建物配置      |          |                                                                                                          |                                                                                          |
| 災害関係      | 浸水       | ・ 浸水実績区域のため、敷地の造成（嵩上げ）による浸水対策が必要。                                                                        | ・ 浸水実績区域ではあるが、敷地が既に嵩上げされているため、整地程度で造成は不要。                                                |
|           | 土砂災害     | ・ 安原川は土砂災害対策が未定ではあるが、警戒区域から大きく外れており、校舎部分を嵩上げすることにより、被災の可能性はさらに低くなる。                                      | ・ 松川川は土砂災害対策として砂防堰堤（砂防ダム）の設置も決定しており、警戒区域からも外れている。また、敷地が嵩上げされているため被災の可能性は低い。              |
|           | 地震に伴う液状化 | ・ 液状化の危険度は低い。（0 < 液状化可能性指数 ≤ 5）                                                                          | ・ 液状化の危険度は低い。（0 < 液状化可能性指数 ≤ 5）                                                          |
|           | 地震に伴う津波  | ・ 津波による浸水の影響は低い。（浸水深：0.01m未満）                                                                            | ・ 津波による浸水の影響は低い。（浸水深：0.01m未満）                                                            |
| 建物の配置     |          | ・ 整形な敷地で配置計画の自由度が高い。                                                                                     | ・ 不整形な敷地（L形）で配置計画の自由度が低い。                                                                |
| 建物の階数     |          | ・ 建設可能範囲が約5,600㎡と広く、低層建築（1階又は2階建て）も可能。                                                                   | ・ 建設可能範囲が約4,000㎡と小さいため、低層建築（1階又は2階建て）は難しい。                                               |
| 学校全体の管理   |          | ・ 職員室を校庭近くに配置することで、学校全体を見渡すことが可能。                                                                        | ・ 職員室をどこに配置しても学校全体を見渡すことは困難。                                                             |
| 校庭の広さ     |          | ・ 校庭面積は現在より小さくなるが十分な広さを確保可能。 約13,400㎡<br>（設置基準：小学校 3,000㎡以上 中学校 3,600㎡以上 計 6,600㎡以上）<br>・ 200mトラックを配置可能。 | ・ 現在と同じ広い校庭。 約16,400㎡<br>（設置基準：小学校 3,000㎡以上 中学校 3,600㎡以上 計 6,600㎡以上）<br>・ 200mトラックを配置可能。 |
| 校庭へのアクセス  |          | ・ 新設校舎から直接校庭に出ることができ、アクセスしやすい。                                                                           | ・ 中学校の屋内運動場があるため、新設校舎からはアクセスしにくい。                                                        |
| テニスコート    |          | ・ 建物の配置によってはテニスコートの移設が必要。                                                                                | ・ 既存のテニスコートが使用可能。                                                                        |
| 小学校体育館の配置 |          | ・ 小学校体育館を配置できる十分なスペースがある。                                                                                | ・ 小学校体育館を配置できる十分なスペースがないが、校舎一体型なら可能。                                                     |
| 日影による影響   | 既存校舎     | ・ 既存校舎への影響はほとんど無い。                                                                                       | ・ 既存南棟が新設校舎の影響を受ける。                                                                      |
|           | 校庭       | ・ 新設校舎の高さや形状によっては、校庭への影響が出る。                                                                             | ・ 校庭への影響はほとんど無い。                                                                         |
| 基本計画との関係  |          | ・ 配置の自由度が高いため、これまでの配置、平面計画をある程度引継ぎやすい。                                                                   | ・ 配置の自由度が低いため、これまでの配置、平面計画を大きく見直す必要がある。                                                  |